

「OB/OG と語る会」アンケート結果

7月1日、学部3年生を対象に今年も「OB/OGと語る会」が開催されました。今年は藤田泰嗣様（物質工学科、平成8年卒、プライスウォーターハウスクーパース(株) デイレクター）と塩田達俊様（物質工学科、平成9年卒、埼玉大学理工学研究科准教授）のお二方と会を開催いたしました。講演内容はお二方が書かれた要旨を参照下さい。出席した学生の感想を以下に掲載いたします。学生にとって現役企業人の話は新鮮で刺激になると感じられます。継続開催が期待されます（会誌・名簿グループ）

参考までに、「化学の分野に進んだ企業研究者の話を聞きたい」との要望が多く寄せられていました。

将来の方向性は視野を広く持ち様々なことに挑戦することで段々と定まっていくものかなと思いました。

海外での研究のことを聞いて良かった。

失敗したことを悔やむより何が原因かを考えることが大切
海外生活をもっと聞きたい

何の役に立つのか常に考えるようにしたいと思った。
さまざまな人との関わりで自分を高めることができると感じた。

同じ学部を卒業しても様々な進路での活躍の場がある
研究がどのような感じかが分かった

就職試験の面接でどんなことを聞かれるのか参考になった

社会人の目から見たものは自分の立場から見たものと大きく違うと感じた

化学を出ても化学以外の仕事に就いているのを知って驚いた

大学内だけの知識では社会は生きていけない
失敗を伝達・分析・工夫につなげていくことで進歩につながる

社会で活躍する先輩の話を聞け、就職する際の参考になる
コンサルティングや大学教員などのような選択があることが分かり、視野を広くして方向性を決めていこう

企業の研究でお金をもらえるような人になり、社会に還元したい

自分の好きなことをするのが一番ぶれないと思う

多分野の視野が大切

研究の面白さや大変さが少しは分かったのが参考になった

化学の話が多い中、戦略や考え方についての話は非常に新鮮であった。

藤田さんや塩田さんのように同じ学科を出てもいろいろな方向性があるので広い視野を持って将来を見据える

非常に良い経験であった

これからの生活でも自ら行動し、コミュニケーション能力を上げていきたい

大学に入って初めて充実的なお話を聞いたような感じがする

大学に入学した時点である程度将来の幅が狭まったと思っていたがそうではない
どの方向に進もうとも幅広い視野が必要であり、部分的にみるだけでは新しい発見ができる可能性が低い

どんなことをするにも何か1本信念をもっていないといけない

社会に出る前に社会で活躍している方の話を多く聞きたい

研究室配属がまだなので、これからの分野を見極めるのに参考になりました

先輩がたくさんの方で活躍されている。
お二人ともユニークだと感じた

定期的にこういう機会があるとよい

研究者の道も考えていたので、博士課程後の進路が聞けて良かった

今の仕事に一生懸命向き合っていると感じた

「失敗」のすすめ

プライス ウォーターハウス クーパーズ株式会社
ディレクター 藤田 泰嗣

失敗は必ず起こる。

そしてそれが“不思議”であることはない。必ず成功する方法はないが、必ず失敗する方法はあるとも言える。つまり、勝負に“負けたくない”ためにはうまくゆく道筋より、まずくなる道筋を学ぶことが必要なのだ。徒然草の第百十段に「双六の名人と呼ばれている人に、その必勝法を聞いてみたところ、「勝ちたいと思って打ってはいけない。負けてはならぬと思って打つのだ。どんな打ち方をしたら、たちまち負けてしまうかを予測し、その手は打たずに、たとえ1マスでも負けるのが遅くなるような手を打つのがよい」と答えた。」とある。

“負けたくない”ために“失敗に”ではない、“失敗を”学ぼう。

失敗をしないということ。

それは体感、実感という『受け入れの素地』が得られないということでもある。自律的に考え、合理的に判断する…だけでは、実践的とはいえない。体感、実感がなければ他人を納得させ共に力をあわせることなどできないものだ。

かといって、闇雲に失敗すればいいというものでもない。許される失敗とは、成長と進歩に必要なものであり、許されない失敗とは、同じ失敗を繰り返すものである。

失敗の多くは情報伝達の途絶で起こる。

事例についての情報だけでは何も伝わらない。結果だけではわからないのだ。わからなければ伝わらない。伝わらなければ使えない。脈絡を知って、はじめてわかる。これを知識化という。知識にして初めて情報は伝達可能になる。

失敗を学んだならば、次は戦略が必要になる。

順次戦略と累積戦略は真逆だがでも共存不可能というわけではない。

これからみんなの前には順次戦略…『過去の延長線の未来』が現れる。SMART(Specific = 具体的でわかりやすい, Measurable = 計測可能になっている, Agreed upon = 同意して、達成可能な, Realistic = 現実的で結果志向, Timely = 期限が明確)で考えればいい。これは言い換えれば現状肯定。今よりこれだけよくなるというもの。だが、これだけではイノベーションは起こせない。イノベーションには累積戦略…『過去の延長線上に未来はない』。量が質に転換する事がある。自転車はだんだん乗れるようになるのではなく、ある瞬間に乗れるようになる。量は質に転換するのだ。ぶっ飛んだ目標を掲げて、どうすればいいのか？と考え、がむしゃらに量やる事が時に必要になる。失敗を学び、2つの性質の異なる戦略を共存させることが負けなための秘訣だ。

「OB / OGと語る会」の講演報告

埼玉大学大学院理工学研究科 塩田 達俊

今年、私の卒研時の恩師である關先生に現在の私の研究の相談に伺いました折、「OB / OGと語る会」で卒業生としての現役学生へ話をする様にご提案頂き、お引受けいたしました。現在私は埼玉大学の教員ですので、日常的に学生に“お説教”したり時には大学院への内部進学を勧めたりしておりますが、今回の講演で同様の話をすれば、聴講学生は筋合いがないと思われるでしょうし、競合相手？から大学院の勧誘をされたら横国の先生はいい思いは抱かないでしょう。そこで、卒業生として仕事内容や職場選択や都度思ってきたことを事実として自伝的に話し、取捨選択を聴き手に委ねようと思いましたが、構成を敢えて時系列にして、次の様に高校生時代から現在至る私の経歴やエピソードと現在の私の研究を少しお話しさせて頂きました。タイトルは「学生から大学教員になるまでのエピソード」です。

冒頭は化学との出会い。…高校1年生はじめての期末試験で、私の化学への印象は最低となりました。結果がマイナス4点だったからです。採点された答案を受け取った際には4点と思いましたが、後で恐る恐る見直すとマイナスがついて「-4点」と書かれていました。びっくりして先生に詰め寄りましたら「減点法だからだよ。試験を受けない方がましだったねえ。」なんて軽い返事を頂きました。実は、試験前に私は一所懸命に化学の試験の準備をしまし

た。授業中に聴いて最も印象を受けたパウリの排他律について、深く理解できませんでしたが少しでも答えられる様に私なりに必死に原理を勉強しました。ところが、聴かれた問題は全て化学法則の名前と因んだ人物の名前を線で結べというものでした。ここから、トラウマと勉強へのひねくれた考えが私の中に生まれて、その後…。と話を導入して、化学への印象の変化、私の現在の研究に影響したその時々々の社会情勢とそれを踏まえた学問分野の流行の変遷など、私見を交えてお話しいたしました。

後半は現在の研究について少々。私は現在、学部の授業や卒研で勉強した“光”を対象にした研究を行っています。光技術は、医療現場や光通信、機械加工など幅広い技術分野に浸透してきております。20年前に私が学部生の頃、化学における光の役割が赤外スペクトル分析や光化学反応であったように、光技術のほとんどは光をエネルギー源として扱っていました。近年では、レーザーの様な光エレクトロニクス的发展と普及により、光を波として汎用的に扱えるようになったことで、制御性や情報量が格段に向上しました。光で化学反応を制御できるという発想も新しいものではなくなりつつあります。

私の話が在学生の心に響いたかはわかりませんが、今後直面する進学や就職、仕事などの選択で悩むときに参考になれば成功です。